

このたび、企業・団体のCSR・社会貢献についての荣誉ある賞を受賞された皆様、本当におめでとう  
ございます。今後もさらなる活動の発展を祈念するとともに、企業・団体のCSR・社会貢献ネットワ  
ークである『淡海フィランソロピーネット』と一緒に盛り立てていけますよう、どうぞよろしくお願い申  
しあげます。  
《淡海フィランソロピーネット運営委員一同》

2013年度(平成25年度)  
「淡海フィランソロピーネット運営委員長」  
表彰式

開催日：平成25年7月10日(水)  
会場：ライズヴィル都賀山 5階 ロータス  
表彰者：大角 浩子 氏(株式会社日吉)  
表彰理由：株式会社日吉の社会貢献・CSRの担当者として、淡海フィランソロピーネットの活動にも積極的にに関わり、平成21年度より、当ネット運営委員・幹事として各種の活動・事業に参画。



また、株式会社日吉における社会貢献活動の推進について、社内における広報啓発、活動企画とともに、県内外の先進的な実践等の情報の取り入れ等、視野とネットワーク豊かにCSR・社会貢献の普及等に尽力。他の模範となることから今回の表彰となりました。

平成25年度  
「滋賀県社会福祉協議会会長」  
表彰

・大角浩子さん(株式会社日吉)

平成25年度  
「滋賀県知事」表彰

・株式会社日吉  
・オーパルオブテックス株式会社

淡海フィランソロピーネット 入会案内

淡海フィランソロピーネットは、滋賀県内に拠点を置く企業・団体の社会貢献活動ネットワークです。

CSR・社会貢献活動に関する普及・啓発、調査・研究、情報交換・交流等をおこなっております。

現在、124の会員(企業・団体、個人)により活動をしています。

ぜひ、私たちとともに魅力ある社会づくり、地域づくりを進めていきませんか。県内の多くの企業・団体のご入会をお待ちしております。

(お問い合わせは事務局…TEL 077-567-3924まで)

【主な取り組み】

- ペットボトルキャップリサイクル活動  
→HANAWA活動やリサイクル製品開発研究への協力
- 災害ボランティア活動  
→滋賀県災害ボランティアセンター運営協議会(資機材担当)として参画。被災地からの要請にもとづき、災害支援のボランティア活動やセンター運営に必要な資機材や物資の調達等をおこなう役割を担っています。
- 滋賀地域の企業・団体の社会貢献ネットワークの構築

2014年1月発行/淡海フィランソロピーネット・滋賀県社会福祉協議会  
〒525-0072 滋賀県草津市笠山7-8-138  
TEL:077-567-3924 FAX:077-567-5160  
ホームページ: [http://www.shigashakyo.jp/oumi\\_p\\_net/index.html](http://www.shigashakyo.jp/oumi_p_net/index.html) Vol.28

地域貢献の新たな取り組み

第1回チャリティバザー「カレンダー」・「手帳」市を開催しました!!

1月11日(土)フォレオ大津一里山(大津市一里山7丁目1-1)において、チャリティバザー「カレンダー」・「手帳」市を開催しました。25会員企業・団体よりカレンダーが約2,500点、手帳は約500点が集まり、売り上げは約10万円にのぼりました。



全体の流れ

- ①会員企業・団体からカレンダー・手帳を出品。
- ②チャリティバザーで全て100円にて販売。
- ③バザーの売り上げにより、滋賀県内循環型ペットボトルキャップリサイクル事業～HANAWA活動により生み出されるリサイクルプランターで、花や野菜を育てる環境学習資材「栽培キット」を購入。
- ④滋賀県内の小学校へ寄贈。
- ⑤滋賀の子どもたちの環境・福祉学習や地域交流、福祉活動の推進をはかります。

前日準備・当日運営スタッフとともに、多くのカレンダーや手帳を提供いただいた会員の皆様、そして、チャリティバザーの主旨をご理解いただき、無料で会場を提供いただいたフォレオ大津一里山に、心よりお礼申し上げます。本当にありがとうございました。

滋賀独自の県内循環型のCSR・社会貢献活動

ペットボトルキャップリサイクル～HANAWA活動への参加を!!



障がい者が働く作業所で集められた「ペットボトルキャップ」等を原材料としたリサイクルプランターに花・グリーンカーテンを作業所で植えるとともに、作業所による定期的なメンテナンスをセットとした製品が、植栽リース事業として平成23年4月よりスタート。

賛同する企業・団体により、事業所内における回収BOXの設置【計23会員企業・団体】や、メンテナンス付リサイクルプランターリース販売の利用【計7会員企業・団体】など、協働関係とともに、環境保全と障がいの賃金向上につながっていることが特徴です。

「ペットボトルキャップリサイクル」事業の趣旨にご賛同いただける会員企業・団体様は是非ご参加ください(お問い合わせは事務局…TEL 077-567-3924まで)。

## 平成25年台風18号 災害支援活動報告

★★ 株式会社 平和堂 あどがわ店 ★★

### 《初期の取り組み》

被災後より間もなくして、高島市災害ボランティアセンター（高島市社会福祉協議会が運営）から、物資の提供等について相談の連絡があどがわ店へ入りました。

あどがわ店では直接的な被害がなかったこともあり、まずは店内にあるものをかき集め災害ボランティアセンターへ届けられました。

まだまだ暑い日が続いた9月下旬、日中の長時間にわたる泥出しや清掃、家財の搬出などを行う災害（支援）ボランティア活動には、多くの物資類が必要でした。

その後も、物資の提供等が続けられたあどがわ店では、累計で水・お茶類を65ケース、タオル類およそ570枚を、全て無償で高島市災害ボランティアセンターへ送られ、継続的な活動のサポートがおこなわれました。



株式会社平和堂あどがわ店の  
曾谷公雄店長にインタビューしました

### 《災害(支援)ボランティアとして現地支援活動へ参加》

また、ボランティアの活動数が少なくなるのが予想された平日の期間に、高島市災害ボランティアセンターからボランティア協力が求められました。9月24日(火)～27日(金)の4日間で多くの職員が参加され、あどがわ店だけでなく平和堂グループの湖西ブロックにある各店舗も協力をし、4日間で計45名の職員が参加されました。

活動に向かったのは市内の朽木地域で、家のまわりは整理されているように見えていましたが、1階部分、家の中にまで土砂や泥が入りそこでは生活できる状態ではなく、家の人たちだけで片づけをおこなうのは非常に困難な状況でした。ボランティアとして、日中、懸命に泥だしや清掃など被災された方の困り事のお手伝いなどの活動がおこなわれました。

今回の支援活動で、はじめてボランティア活動に参加した職員も多かったと曾谷店長は言います。テレビのニュースを見て「情報」として地元の様子を知っていた『台風』や『被災者』、しかし実際に、災害ボランティア活動に参加し、被災にあった方の家の中で作業をしたりふれあったりすることで、「身近な地域の問題」として実感するとともに、少しでも復旧復興に役立てればという思いを強めていきました。



### 《災害時における企業の社会的役割やCSR》

「店に被害が出たとしても、地域住民の『ライフライン』を守る“お店”として、まずは店を開けることが使命です」と、曾谷店長は言います。

今回、企業としてボランティアや物資の提供面で動くことができたのも、現地の情報等を整理し発信した「災害ボランティアセンター」の存在が大きかったとのことでした。

災害が起き、何かしたいと思っている企業側も、状況がわからないまま1者のみで動くことはできません。いざという時のための行政や社協等との日頃からの結びつきが大切と言えます。

## 2013年度(平成25年度)企業・団体のCSR・社会貢献活動セミナー

テーマ『災害時に備え、企業・団体の危機管理の実効性を高める』

このセミナーでは、個々の企業・団体における緊急時に備えた様々な取り組みについて理解を深めるとともに、運用面における課題等を整理し、互いの協力連携も含めた効果的な運用について具体的に考えていきました。

### 「第1部：実践報告」レポート

【報告者】 中川 雅樹 氏  
 (リコージャパン株式会社 元震災復興支援室  
 シニアマネージャー、震災体験メッセージ集  
 『真の気づき・教訓』編集プロジェクトリーダー)

### 「震災体験メッセージ『いざ、その時！あなたはどうか備えどう動くか』 ～～震災体験メッセージ『真の気づき・教訓』より～～」



「真の気づき・教訓」は下記ホームページよりダウンロードできます。  
 <<http://www.ricoh-japan.co.jp/about/csr/fukukou/kiduki.pdf>>

リコーグループ東北地区社員の東日本大震災の体験を風化させず、全国に向けてメッセージを発信していくことで、今後、災害が発生した場合に多くの人命を救い、被害を最小限にとどめることにつなげたいとの思いから発行にいたしました。

体験メッセージを35の教訓にまとめ、下記の5つのステップ段階ごとに整理しました。

- STEP① 地震だ！～30秒自分自身を守る
- STEP② 揺れが止まった！～3分安全な場所に避難する
- STEP③ 皆無事か！～3時間家族の安全を確認する
- STEP④ 今すぐ会いたい！～30時間家族と合流する
- STEP⑤ 我慢が大切！～3日間日常生活に戻るまで頑張る

ある体験ケースでは、震災直後から携帯が不通でつながらず、家族の安否もわからない中、家族は真っ暗な学校で2日間の避難生活を強いられたものがありました。その体験をとおして「電話はダメでしたが、メールは遅れても何とか届き、不安な妻と娘にメールで励まし続けた。こんな時はどうするか、家族で話し合っておくべきだったと強く思った」とのことでした。

他のケースでは、会社の安否確認で無事と回答した後、地震発生から40分後に津波の直撃を受け、前の電話ではまさか自分が危険な目にあうとは思わず、「安否確認は1回じゃだめだ！！」と痛感したという体験もありました。

また、他地区の社員からは、都内もパニック状態で公共交通機関はストップ。子どもがいた保育園に駆けつけることができたのは深夜2時。有事の時には助け合う、子どもを助けてもらえるような関係を普段からつくっておくことが、仕事を持つ母親の務めだと考えるようになった…という体験の声も聞かれました。

“私たちリコーグループの気づき”

「BCPIは社員と家族を守ることからスタートする」



### 【ご参加いただいた方の声(アンケート結果より)】

- 気づき、行動を。当たり前のことをどう認識できるか。当たり前のことの積み重ねが重要であることを再認識した。
- 南海トラフ大地震の発生が予想されている中で、東日本大震災の教訓をもとに説明いただき、大変参考になりました。
- “自らに置きかえ考える”というきっかけをあたえていただいたと思います。ともすれば風化しつつある震災…いつ起こるかかわからないことを肝に命じていきたい。
- 実体験から生まれた気づきをまとめるにあたり、関係の資料を調査して補足されていることに感心しました。地域での活用をさせていただきたいと思いました。